

# Jacques Henri Lartigue

Capturing Moments of Joy



## ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて

**展覧会概要：**

会 場：埼玉県立近代美術館

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1

T E L：048-824-0111

U R L：<http://www.pref.spec.ed.jp/momas>

会 期：2016年4月5日（火）～5月22日（日）

開館時間：10:00～17:30（展示室への入場は17:00まで）

休 館 日：月曜日（5月2日は開館）

観 覧 料：一般 1000 円（800 円）、大高生 800 円

（640 円）（ ）内は 20 名以上の団体料金

\*中学生以下と障害者手帳をご提示の方（付き添い 1 名を含む）

は無料です。\*併せて MOMAS コレクション（1 階展示室）も

ご覧いただけます。

主 催

埼玉県立近代美術館

後 援

在日フランス大使館/

アンスティチュ・フランセ日本

協 力

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社

J R 東日本大宮支社

F M N A C K 5

企画協力

コンタクト

写真：スージー・ヴェルノン、ロワイヤン、1926年9月

Photographie Jacques Henri Lartigue

©Ministère de la Culture - France/AAJHL

**「人生とは、踊り、跳びはね、飛翔し、笑い・・・****そうして過ぎ去っていく素晴らしいものだ！」****開催趣旨：**

ジャック＝アンリ・ラルティエグ初の大規模な回顧展がニューヨーク近代美術館で開催され一躍脚光を浴びたのは、1963年、ラルティエグ69歳の年でした。70歳を目前にしたあまりにも遅咲きのデビューは、世界中に大きな衝撃を与えました。以来、この“偉大なるアマチュア写真家”の展覧会、出版が世界各地で相次ぎ、現在では写真の巨匠としてその名前は写真史に大きく刻まれています。ジャック＝アンリ・ラルティエグは、1894年、フランス、パリ郊外クルブヴォワの非常に裕福なブルジョワの家庭に生まれました。7歳のラルティエグ少年は、写真好きの父親に、初めてのカメラとなるガラス乾板を使う木製ビューカメラを買ってもらいます。絵を描くことが大好きだ

ったラルティエグ少年は、この“魔法のおもちゃ”に夢中になり、あくまで自分の楽しみのためだけに、愛するものたちとの幸せな時間を記録し続けました。

アール・ヌーボー最盛期のフランスで富裕な家庭で育ったラルティエグ少年は、その目撃者でもありました。カメラが非常に高価だった時代、写真は一握りの人だけが享受できる贅沢な趣味の一つであり、写真がおもちゃ代わりでもあったという事実は、ラルティエグの家庭がいかに裕福な家庭だったかをも物語っています。自動車、飛行機、テニス、海辺のヴァカンス、当時の最新モードに身を包んだ女性たち・・・ラルティエグが自分の楽しみのためだけに記録していたこれらの写真は、文化、芸術、産業などすべてが輝きをもっていた古き良き時代の貴重な財産ともなっています。

本展では、子ども時代から晩年までの代表的な作品と、その多くが日本初公開であるカラー作品など約160点を通して、写真を楽しみ、過ぎ行く時間や人生の歓びをつかまえようとしたラルティエグの世界をご紹介します。



写真左上：ダニとミシオンとボビー、フリボール・クラブにて、カンヌ、1936年5月

写真左下：ビビ、「エデン・ロック」のレストランにて、アンティープ岬、1920年5月

写真右下：「ジスー22号機」の初飛行、ルザ、1909年4月

Photographie Jacques Henri Lartigue©Ministère de la Culture - France/AAJHL。

＜本件に関するお問い合わせ＞

株式会社コンタクト 担当：佐藤正子

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-59-8-503

TEL：03-3405-5081 FAX：03-3405-5082

E-Mail [info.contact.tokyo@gmail.com](mailto:info.contact.tokyo@gmail.com) URL <http://www.contact-tokyo.com>